わたしの聖戦 ジ・ハード

◎◎女性が働くということ◎◎ 84

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

健康の定義―スピリチュアルの位置づけ

WHO（世界保健機関）では、健康の定義を「健康とは、単に身体に病気がないとか、身体が弱くないというだけではなく、身体的にも、精神的にも、また社会的にも完全に調和のとれた良好な状態である」と定義づけている。私を含め医学を学ぶものにとって、どこかで必ず遭遇する有名な定義がこれである。

ところで、平成10年というから今から10年以上前になるのだが、この定義の改正案が検討されたことがある。「身体的（physical）」「精神的（mental）」「社会的（social）」に「spiritual（スピリチュアル）」を加えようというのがそれであった。ひとまず、総会で議題として取り上げるのに賛成したのは22カ国に及び、議題採択に反対した国がゼロということから、この改正案が具体化することも可能性としては十分あったと思われる。

そこで、問題となるのは「スピリチュアル」をどうとらえるか、であった。

従来の「身体」や「精神」は、英語であっても他の言語にも訳しやすく、元の意味をほとんど損なうことはない。それゆえにこの定義は世界中で受け入れられてきた。ところが、「spiritual」となると、いったいどういう日本語に相当するのか、はたと困ってしまうのもいたしかたないだろう。ちなみに、スタンダードな英和辞典によれば、spiritualは「精神の」「霊的な」「崇高な」「宗教上の」などの解説がある。

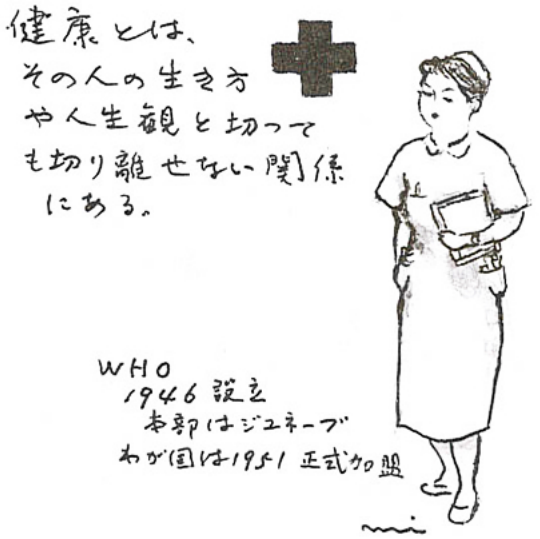
一方、WHOの定義との連続性にあり、その人の深いところにあるもの、または宗教と密接な関係を持つもの、というところに落ち着くような気がする。つまり、英和辞典の日本語訳をほぼ踏襲していることになる。

ではなぜ、「spiritual」をWHOの定義に加えようとする動きがあったのか。

結論からいえば、この案は否決され、結局今も従来の定義のままである。その理由のひとつは、改正案を提出したのがイスラム文化圏に位置する国々であったことから、健康の定義として宗教色が見え隠れするのは好ましくないとWHOが判断したため、といわれている。

しかし改めて昨今の世情を考えると、再度「spiritual」の導入は検討されてもいいように思う。健康とは、その人の生き方や人生観と切っても切り離せない関係にあり、生活習慣や早期発見という「浅い健康」を追求した結果、結局は誰もが死に行きつくという運命からは逃れられないことに気づく。健康と死は相反する位置ではなく、同じ土壌で語るべきだということに心から納得するときが来る。そう考えると「spiritual」から目をそらすことは、上滑りの健康しか考えないことにつながってしまう。

イスラムから生まれたユナニ医学はその後ギリシャ医学に発展し、西洋医学に枝分かれし、人々の健康を支えてきた。その歴史を知れば「spiritual」とは、そのあいまいな存在感とともに、「哲学」「いきがい」「その人らしさ」などの幅広い解釈のできる言霊（ことだま）として、もっと身近に親しんでもいいと思えてならない。



イラスト・三浦義雄